

クロージング

司会： 宇田川健 & 大島巖 (認定 NPO 法人地域精神保健福祉機構・コンボ)
高橋清久 (認定 NPO 法人地域精神保健福祉機構・コンボ アドバイザリー)

リカバリーフォーラムの最後には、必ず「クロージング」のプログラムを設けます。

クロージングでは参加者の方達に、自分が参加できなかったプログラムで話し合われたことや雰囲気を実感していただくために、グループトークを行いました。

大教室に集まった参加者はおおよそ 400 人。近くに座っている参加者の方々が声をかけあい、7～8 人前後の小グループが 33 できあがり、それぞれの分科会の内容や話し合われたこと、今後のリカバリーフォーラムに期待することなどについて話し合いました。

おおよそ 20 分の話し合いの時間はどのグループも大いに盛り上がり、会場は熱気に包まれていました。話し合いの時間が終了し、8 グループの代表者や参加者から、話し合ったことや参加しての感想を発表してもらいました。以下は発表された内容の一部です。

- 就労支援の分科会に参加したが、来年からの制度改革によって、何がかわるのかということに関心が集まっていました。
 - 今回のリカバリーフォーラムでは、未来の明るい側面と過去の側面が感じられた。未来の明るい側面は、結婚のことや WRAP のことなどの発表であり、過去の側面とは、身体拘束などが現在でも存在すること (そうしたものをなくすべき) ということを感じた。
 - 結婚や恋愛の分科会では、配偶者が様々な修羅場を乗り越えてきた話が印象的だった。
 - IMR や WRAP はこれからの時代の未来を感じ、また、見える化のさまざまな取り組みは、情報がまだ必要なところに届いていないことがわかった。
 - トークライブは非常に印象的で、皆さんからパワーと元気をいただいた。私は同僚に勧められて今回初めて参加をしたが、参加して本当によかった。
 - 分科会では仲間とつながることができた。リカバリーフォーラムは人と人がつながる場だと思う。そして、対話がとても大切だと実感した。
 - リカバリーについての俳句を作りました。 つらいけど やらなきゃそんだよ リカバリー
 - イタリアと日本の違いが印象的でした。日本の医療に未来を感じられなかったが、様々な活動が未来をつくりあげていくことを感じることもできた。
 - 今回は、コンボの 10 年ということがテーマだったが、さらに、次の 10 年が楽しみ。
 - 分科会の時間が短すぎる。もっと長く時間をとってもらいたい。
 - 日本の精神保健福祉が、イタリアのようになるように頑張りたい。
- などの感想が語られました。

最後に、会場全体で、「オー！」というかけ声で集合写真を撮影して、クロージングセッションを終了しました。